

<p>第4学年 音楽科学習指導案</p>	<h2 style="margin: 0;">「美しい二部合唱をつくろう」</h2> <p style="margin: 5px 0 0 40px;">日 時：平成24年11月〇日 指導者：広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇 児 童：第4学年〇組</p>
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 題材について

<p>【題材の目標】 ○ 旋律の重なりや声の響き合いを感じ取って合唱することができる。</p> <p>【新学習指導要領】 2内容A表現(1) イ, エ</p>	<p style="text-align: center;">〔共通事項〕</p> <p>(1) ア (ア) 音の重なり (1) ア (イ) 問いと答え</p>
<p>【教材】 「もみじ」(高野辰之作詞 岡野貞一作曲 中野義見編曲) 「音楽のおくりもの」(名村 宏作詞 赤尾 暁作曲)</p>	

【題材について】
本題材では、〔共通事項〕の中から音の重なりと問いと答えを学習内容として、旋律の重なりや声の響き合いを感じ取りながら、美しい二部合唱ができるようになることをねらいとしている。

教材として日本の代表的な景色であるもみじの美しさを歌った「もみじ」を取り上げる。主旋律を副旋律が追いかけたり、和音で重なったりするなど、旋律の重なりや響き合いを感じて合唱することのできる教材である。

「音楽のおくりもの」も「もみじ」と同様に、音の重なりと問いと答えの部分があり、旋律の重なりを感じ取って歌うのに適した教材である。「もみじ」とは対照的に軽快で明るい曲であることから曲調の変化がとらえやすい曲である。この2曲を同時に取り組むことで、いろいろな旋律の重なりに気づき、それぞれの曲想に合った表現ができるようになると思う。

【児童の実態】
児童はこれまで、共通教材を斉唱しており、その中で曲想の変化や言葉が美しく聞こえるように気を付けながら取り組んできた。教材によっては部分的に二部合唱で歌った経験があるが、旋律が重なる美しさや面白さ、楽しさを感じながら合唱するという経験はまだない。

どの児童も積極的に歌うことができている反面、曲によっては曲想にふさわしくない歌い方をすることがある。

【指導に当たって】

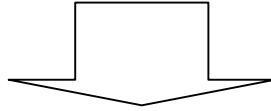
○ **【共通事項】音の重なりと問いと答えについて**
教科書の楽譜を見ながら、旋律がどのように重なっているかに気付くことができるようにする。そのことからお互いの歌声の音色を一つにすることや、歌声が重なり合う美しさを感じながら表現することを意識付ける。また、歌詞の内容が、音楽の要素とどのように結びついているかを理解し、そのうえで曲想にあった歌い方を工夫しながら学習を進めていく。

○ **美しい二部合唱に向けて**
二部合唱では、それぞれのパートの旋律がつかれないように必要以上に力んで声を出してしまい、二つの音がとけあわなくなってしまうことがある。お互いに声が響き合うように、どちらも同質でやわらかい声で歌うことで、自然で無理のない歌い方を身に付けることができると思う。美しいハーモニーをつくるには、それぞれのパートの斉唱が美しいことが前提となる。そこで、これまで学習した共通教材を使って、声の音色を合わせたり、言葉の捉え方(助詞や語尾の歌い方)、フレーズの出だしなどに気を付けて歌うようにしたい。児童が常にそのことを意識できるように、意識付けたい事項を掲示しておくようにする。

○ **協同学習との関わり**
グループでの活動場面では、自分の歌声と友だちの歌声をしっかりと聴き合い、互いの呼吸と声を合わせて活動を進めていかなければならず、そこにはお互いが協力する気持ちが必要である。児童はより良い表現へと試行錯誤を重ねる中で、二部合唱の美しさを味わうだけでなく、お互いの心も合わせるといふすばらしさも経験できると考える。

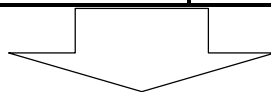
【既習事項】

- ① 時期 第4学年 6月
- ② 題材名 「せんりつと音色」
- ③ 題材の目標 曲想を捉え、旋律の感じに合った声や歌い方を工夫する。



(全3時間)

時	教材	学習活動 (○) 学習内容 (・)	具体的評価規準 (評価方法)
第1時	「もみじ」	○ 「もみじ」を歌う ・ 主旋律と言葉の美しさ ・ 歌詞に合った歌い方	【関心・意欲・態度】 歌詞の内容から情景を想像して表現に生かしたり、互いの声を聴きあって合唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。 (発言やつぶやきの内容, ワークシート)
第2時	「音楽のおくりもの」	○ 「音楽のおくりもの」を歌う ○ 「もみじ」を歌う ・ 曲想に合った歌い方 ・ 旋律の重なり方 ・ 美しい二部合唱	【音楽表現の創意工夫】 旋律の流れを生かし、互いの声を聴いて声部の役割に気づきながら表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (活動の観察, 演奏の聴取, ワークシート)
第3時 (本時)		○ 「もみじ」を歌う ・ 旋律の重なり方 ・ 美しい二部合唱	【音楽表現の技能】 互いの声や伴奏を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。 (活動の観察, 演奏の聴取)



【これからの学習】

- ① 時期 第4学年 3月
- ② 題材名 「卒業式に向けて」
- ③ 題材の目標 心を込めて歌えるように、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫する。

3 本時の目標 (3 / 3 時間)

- ☆ 互いの声や伴奏を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。
- ★ 音をしっかりと聴き合い、互いの呼吸と声を合わせて協力して活動している。

4 授業の視点

- ・ ワークシートの評価項目をつかって自己評価することで、美しい二部合唱への歌い方の工夫につながっている。

5 本時の展開 (3/3 時間)

学習活動	教師の働きかけ(指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・)	教師の支援(○) 個への支援(※)	評価(☆) かかわり合う力(★) (評価方法)
1 既習曲を歌う。	指 「さくらさくら」「まきばの朝」「音楽のおくりもの」を歌いましょう。 ・「つなげて歌おう」 ・「音色をそろえよう」 ・「きれいに重ねよう」	○ これまでの学習を想起して歌うことができるように、前時の学習のまとめを掲示する。	
2 今日のめあてを確認する。	お互いの声を合わせ、歌い方を工夫して二部合唱をしよう		
3 グループで練習する。	指 グループで練習しましょう。上と下のパートで2つずつのグループに分かれて練習します。 ・パートごとの声を合わせている ・出だしや語尾の歌い方をそろえている 指 ペアのグループで合わせましょう。 ・「ワークシートのチェックポイントができるようにしましょう」 ・「歌い方をそろえよう」	○ リーダーがリコーダーで最初の音を取り、自分たちなりの進め方で練習できるようにする。 ○ 評価項目を説明し、練習でのチェックポイントを全員で共通認識をもつ。 ※ どうしてもつられてしまう場合は距離を離す、音量を下げて合わせるなど、いくつかの手段を助言する。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 児童が思いや意図をもつことができるようにするための支援 </div> <p>☆互いの声を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。 【音楽表現の技能】 (活動の観察、演奏の聴取、ワークシート)</p> <p>★音をしっかりと聴き合い、互いの呼吸と音を合わせて協力して活動している。 (活動の観察)</p>
3 発表して聴き合う	指 ペアのグループの発表を聴き合い、よいところを見つけて発表しましょう ・「「かずあるなかに」の歌い方がそろっている」 ・「「まつをいろどる」がきれい」 ・「「やまのふもとの」のリズムがそろっている」 指 二人で合わせて歌ってみましょう。 ・「二人でもつられずに歌えている」 ・「自分もあんなふうに歌いたい」	○ 児童の発言を、整理しながら板書する。 ※ よさを見付けることができない児童には、発表したグループの説明を手掛かりにしたり、教師が楽譜を指し示す支援をしたりして再度演奏をよく聴くよう声かけをする。 ○ 友達の表現を聴いて、自分の表現に生かしたり、歌うことの意欲付けにしたりする。	
4 学習のまとめをする	指 全員で「もみじ」を歌いましょう。 ・「最初よりもきれいにうたうことができた」 ・「きれいに歌声を重ねることができた」 指 これまでの学習で分かったこと、できるようになったことをワークシートに書きましょう ・「音色をそろえるとききれいに合唱できるな。」 ・「部分の歌い方を工夫することで、きれいな二部合唱ができた。」	○ 掲示や板書を手掛かりにするよう助言する。	

6 本時の評価規準

学習活動における具体の評価規準	【音楽表現の技能】 互いの声や伴奏を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。
具体的な評価の方法	グループ活動や発表の場での様子を観察したり、演奏を聴いたりして判断する。
Aと判断する場合の例	〈Aと判断するキーワード〉 ◇ 自分の声と友だちの声との調和 ・言葉やリズムがそろっている ・音色がそろっている ・きれいに歌声が重なっている Aの対象となるのは、他のパートの声をよく聴きながら発音に気を付けて歌ったり、旋律の重なり方の違いを自分なりに工夫して歌ったりしている児童である。
Cと判断する児童への働きかけ	つられてしまい、合わせて歌うことが難しい児童には、距離を離す、音量を下げて合わせるなどの手段を助言したり、教師と一緒に歌ったりして合わせて歌うことができるようにする。

7 板書計画

美しい二部合唱をつくろう

<p>「にっぽんのうた みんなのうた」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くから伝わってきた日本のいいところ ・ずっと残していきたいうた ・日本の文化を知る（受けつぐ） ・外国の人に日本の良さを知ってもらう ・子どもから大人まで歌える 	<p>〈歌い方の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり大声でうたわない ・場所や様子がわかるように ・言葉をはっきり ・フレーズの終わりを小さく ・気持ちをこめて大切に歌う 	<p>〈楽譜を見て気付いたこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2段目は追いかけて ・3段目は同じリズムで重ねる ・4段目はリズムが違う
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈めあて〉

お互いの声を合わせ、歌い方を工夫して二部合唱をしよう

<p>美しい二部合唱のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の高さを合わせる ・音量に気を付ける ・リズムを合わせる 	<p>〈感じたこと〉</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------

「もみじ」の楽譜を拡大し
評価事項を書き込む

ワークシートを拡大して掲示

〈歌い方のコツ〉

- 「あきのゆうひに・・・」の歌い出し はっきりていねいに
- 「かずあるなかに」の最後の「に」を同じ音で
- 「まつをいろどる・・・」の「ま」の音の重なり
- 「みずのうえにも・・・」のリズムを合わせて